特別収録
高野秀行×安田峰俊 講演録「辺境のアウトローたち」

東南アジア詐欺園区 OSINT レポート

詐欺園区大全

みんもんけん出版会

民族問題研究部

目次

第 1 部　序

序　なぜ詐欺園区について書くのか 3
東南アジア詐欺園区マップ＋モエイ川流域詳細図 4
講演録「辺境のアウトローたち：東南アジア詐欺特区の現在」 5

第 2 部　主要園区

KK 園区 17
シュエコッコ／亜太新都市 20
金三角経済特区 24

第 3 部　モエイ川流域カタログ

モエイ川流域エコシステム総論 26
アポロ園区 29
泰昌園区 31
東美園区 32
環亜国際園区 34
御龍湾園区 36
順達園区 38
金鑫園区 40
保利園区 41
パヤトンズー（スリーパゴダパス） 42

第 4 部　シャン州北部

臥虎山荘と 1020 事件　コーカン崩壊の起点 46
1027 作戦 第 2 段階　ラーショー陥落と中国の方針転換 49
モンラーからヤンゴンへ　拡散する詐欺経済 52

第 5 部　カンボジア

シハヌークビル　カジノ都市の崩壊と詐欺園区への転用 55
ポイペト　タイ国境の救出と空爆 58
オスマッチ　李永法のリゾートと国境の 1 万人 59
バベット・チュレイトム　ベトナム国境の前線 60
タイ・カンボジア国境紛争　空爆された詐欺経済 61
ボコール山　仏領避暑地の拷問と Park 氏の死 62
ダラサコール／ Heng He ／ Long Bay　99 年リースと Tea 将軍家 64
カンボジア章まとめ：「上院に対する制裁」と風船効果（balloon effect） 66

第 6 部　コラム

UWSA 第 171 軍区　戦時兵站としての詐欺経済 68
ノマド型シンジケート　SSPP 支配地域のノマド型詐欺集団 70
Telegram リーク資料の読み方　中華圏 SNS の一次資料化 72
ジャングルのインフラ学　電力・通信・燃料の越境調達 74

第 7 部　付録

出典・参考文献一覧 77
あとがき・奥付 81

講演録「辺境のアウトローたち：東南アジア詐欺特区の現在」

開会・登壇者紹介

（拍手）

司会：登壇者紹介に移ります。登壇者、安田峰俊さん。中国ルポライターですね。主に天安門事件を扱った『八九六四』、あるいは現在は中国の認知戦について、さまざまな媒体でウェブ記事を書かれております。高野秀行さん。『アヘン王国潜入記』あるいは『西南シルクロードは密林に消える』といった、世界の辺境を旅する紀行作家としてご活躍なさっております。ではお二方、ご挨拶をお願いいたします。

高野：今ご紹介にあずかりました高野秀行です。よろしくお願いします。（拍手）

安田：どうも、安田と申します。よろしくお願いいたします。（拍手）

高野：すごい資料があったんですね。これ読んでください。びっくりしました、われわれが知らないことが書いてある。予習しとけばよかったな。今日のテーマは詐欺園区ですが、正直言って僕はあんまり詳しくは知らないんですけれども。安田さんとは十何年ぶり、15 年ぶりぐらいで、前に 2 回くらい会ったことがあって、最後に会ったのは、秋葉原の中国人のオタクを安田さんに紹介してもらったときで。

安田：確かそのとき、中国人のオタクが何か知らないけど私を呼んで、なんで呼ばれるの、みたいな話で。

高野：通訳が必要だったんですよ。日本語はすごく上手かったんだけど、アニメとかゲームのことが僕は一切わからなくて、安田さんに来てもらって、このアニメは何年くらいに日本ですごくヒットして、中国では何年くらいにヒットしたものです、とかって説明してもらいましたね。全く使わなかったですけど。

安田：日本語は上手だったけど、コミュニケーションについては通訳する必要があると思った記憶があります。

詐欺園区とは何か

安田：今日は詐欺園区そのものの話というより、むしろ取材過程や背景とか、そうしたお話を高野さんと二人でしていこうかなと思うんですが、まず詐欺園区そのものについては、運営者側の方からさっくりとご説明をいただけますでしょうか。

司会：すごくざっくりとした話をいたします。詳しい話については資料と、物販で販売している『詐欺園区大全』をご覧いただければすごく理解いただけると思うんですけど、軽く話をいたしますと、2020 年のコロナ以降、東南アジアのラオス、ミャンマー、カンボジアの 3 カ国を中心に、詐欺園区と呼ばれる、団地みたいな閉鎖型の居住施設とオフィスが一体になった空間で、いろんなところの外国人を集めまして——主に中国人なんですけど、中国系の人たちを集めて、ロマンス詐欺だったり、あるいは特殊詐欺ですよね、警察官を騙ったり、そういったことを海外のいろんなところに向けてやっていくと。

なぜそういうところで詐欺ができるかといいますと、国自体が腐敗していて、賄賂を渡せば、合法ではないんですけど合法的にできてしまったり、あるいはミャンマーでしたら武装勢力が支配していて国軍の支配が及んでいないから、やりたい放題にやれてしまうと。そういったところで詐欺が広がりまして、去年には日本人の高校生がミャンマーの詐欺園区に連れて行かれた事件が起きたと思うんですけど、そうやって日本とも無縁ではない。むしろ日本人の半グレとかがいるんで、日本人を中心にした詐欺グループが詐欺園区の中で活動しているということもあります。それは特にミャンマーですよね。高野さんが得意なワ州であったりだとか、そういったところで起こっているという話ですね。中国系のマフィアが跋扈している、そのようなところで今何が起きているのかをお話ししていただきます。

安田：引き継いで、それができた経緯みたいなものを、すごく簡単に、中国視点だけで最初にさっくり言ってしまいますと、中国ってもともと、いろいろやりたい放題だったんです。2010 年代前半ぐらいまでの胡錦濤政権ってことなんですが、習近平政権になっていろいろ締めつけが厳しくなると、さらにいわゆる管理社会化とか、そういう難しい話がいっぱいありまして。お金が一気にデジタル化して全部可視化されちゃうので、悪いお金とかは扱いづらくなる。

そうなってくると悪い人たちはどうするかというと、基本的には我慢して国の中にいるんですけど、もっと悪い人たちは我慢できなくて溢れ出るんですね。溢れ出た先が結局、国境を接する東南アジアなんです。プラス、コロナで困窮したりとかいろんなことがあって、プラス、中国政府が一帯一路だとかで、あちこちに工業団地を作ったりして。その工業団地を作ったんだけど結構空っぽになっているので、そこに悪い人がいっぱい入って、それがまるごと詐欺団地になっちゃいました、ということが 2020 年ぐらいから顕著になってきて。きっかけのニュースはいっぱいあったんだけど、日本では去年ぐらいから話題になっています。

一方でその出先が、一つはカンボジアなんですけど、あちこちで湧き出ているんですが、特にカンボジアとミャンマーなんですよね。カンボジアについては先ほどお話ししましたが、そもそもミャンマーになぜそうした怪しいものがいっぱいできてしまったのか。そもそもミャンマーはいろいろドロドロとしているんですが、高野さんからその背景をお話しいただけますでしょうか。

麻薬から詐欺へ

高野：僕はもう 1992 年からですから、20 年以上前からタイ・ミャンマー国境地帯に興味を持っているんですけれども、いかんせんずっとマイナーなエリアで、そこのことを書いても全く誰にも注目されないという状況が永遠に続いていたんですよ。それが突然、詐欺園区で日本の高校生が捕まったということで、ドーンとみんなが注目して、ワイドショーでもタイ・ミャンマー国境をやっているという、僕からすると驚天動地の状況ですよね。

僕からすると、ものすごく新しいことが起きているという感じはあまりしないんですよね。麻薬ビジネスがあって、その代わりに新しいビジネスが入り込んできたという、器は変わらなくて商品が変わったというような印象を受けるんです。ただすごく違うのは、麻薬をいくらやっても、最終的に日本とか他の先進国に届くものは届くけれども、直接は関係がない。ところが今のオンライン詐欺は直接関係がある。ものすごいお金を取られてしまう人がたくさんいるわけですよね。すると急に自分ごとになっていくわけです。昔、僕が原稿を書いて出版社に持っていくと、「これ、日本とどういう関係があるんですか」って死ぬほど言われたんですけども、今やっと関係があるようになった。

安田：そうなんですよ。「日本と何の関係があるんですか」って、魔の言葉ですよね。実はこの詐欺園区自体も、正直 2022 年とかそのぐらいから、中華圏のニュース、特に香港とか台湾のニュースを見て

たらもうめっちゃ話題になってて、こんなの見たら絶対面白いじゃんと言えばちょっと語弊があるんですが、興味深いじゃんって、すごく見てたんですけど、例によって「日本と何の関係があるんですか」って言われ続けて、2年間阻まれ続けてたんです。それが、日本人の高校生がミャンマーのシュエコッコの近くの詐欺園区で捕まっていたっていう話が出てからいきなり、「行ってください」とあちこちが言い始めます。みんな一気に手のひらを返すという、ありがちなことなんです。でも2年間の蓄積がやっと生きた。なんとなく見てただけで、そんなに詳しくはなかったんですけど。

高野：安田さんが詐欺園区に興味を持ったきっかけみたいなのはあったんですか。

安田：結局、話題になったことには何でも食いつくというのは事実なんですけど、もう1個考えると、中国本土に最近行きづらいというのがありまして。

高野：安田さん自身が。

安田：僕自身ですね。別に僕だけじゃなくて、結構いろんな方が行きづらいと思うんですけど。それ以上に大きな問題は、中国が割と発展して、行儀良くなってしまいまして。昔のあのカオスな中国が好きだったのに、何でもありの、その気になればいかなる物事も起きるようなわけの分からない感じが、やっぱりなくなってしまった。まだいっぱいありますけど、それでも昔に比べるとだいぶ大人しくなってしまった。まだ見ぬカオスな中国を追っていたら、中国のカオスな人たちがみんな東南アジアに逃げ出して、溢れ出て、凝縮していったほうに、こっちにいっぱいある。見るしかないという。

KK園区を目指して

高野：なるほど。それで実際取材に行かれたわけですよね。最初はどこに行ったんですか。

安田：最初は、事件の舞台になったKK園区に行こうとしたんです。地図とか資料にもあると思うんですけど、タイのタク県の、向こう側にあるところ。

高野：KK園区っていうのは、高校生が捕まったところですよね。

安田：シュエコッコじゃなくて、ミャワディのちょっと下くらいのところですけど。行こうとしたんですが、やっぱり何らかの人脈がなきゃダメだということで、その人脈を探したらラオスに行きまして。

高野：え？ ラオス？

安田：ラオスに行ったんですよ。

高野：全然違うじゃないですか。

安田：違うんですが、大丈夫です。あの辺にいる中国人は——ちょっと語弊がありますけど——すごく悪い中国人と、ちょっと悪い中国人と、悪い中国人の知り合いしかいない。ほんとにこの言葉は誇張じゃないんですよね。その真ん中ぐらいの、ちょっと悪い中国人だけど、まだ話ができる人。なんでそこに繋がったかというと、昔、中国の民主活動家の本を出したことがありまして。顔伯鈞という、今話題になっているあの中華暗黒ベルトを抜けてタイに逃げ込んだ人なんですけど、その人の本を出したことがあって、その人がカナダに亡命するときに、その本を出したことでなんとか亡命できたというのがあって、向こうの界隈から見たら多分命の恩人なんですよね。彼は逃亡する過程で、結構そういうアンダーグラウンド社会の助けを借りていて。

高野：あの本は面白かったですね。超面白かった。

安田：ありがとうございます。2016年とか、結構昔の本なんですけど。文藝春秋の『「暗黒・中国」からの脱出』って本なんですけど、あれは逆に自分の本じゃなかったので、翻訳した本だったので、（自分でも）純粋に面白かった。自分で書いた本なんですけども。それでその人の紹介で、ラオスにいる微妙に悪い——副業で蛇頭やってます、要は密航ブローカーやってますぐらいの悪い人と知り合いになって、とりあえず仲良くなって。この人に訊いたらKK園区に、彼らの用語で「兄弟」っていう、要は仲間がいるみたいな話で。ただ人づての話だから、もうちょっとしっかり固めなきゃいけないということで、彼とラオスから、ラオスの北のゴールデントライアングルに回って、さらにタイ北部の、こちらの会員の方とかがよく行っている——満星畳という中国語名しか知らないのですが——

高野：ヒンテークですね。

安田：あの辺を回っていろいろ固めて。ちなみにヒンテークの学校の校長先生、中国人なんですが、その人が界隈ですごく力を持っている人で、その人の名刺をもらって、それをお守り代わりに持って、KK園区に行こうとしたんです。行こうとしたところ、タイ軍に封鎖されていまして。

高野：はいはいはい。それいつですか。

安田：確か去年の2月、いや、3月頭です。

高野：じゃあもうその事件があった後。

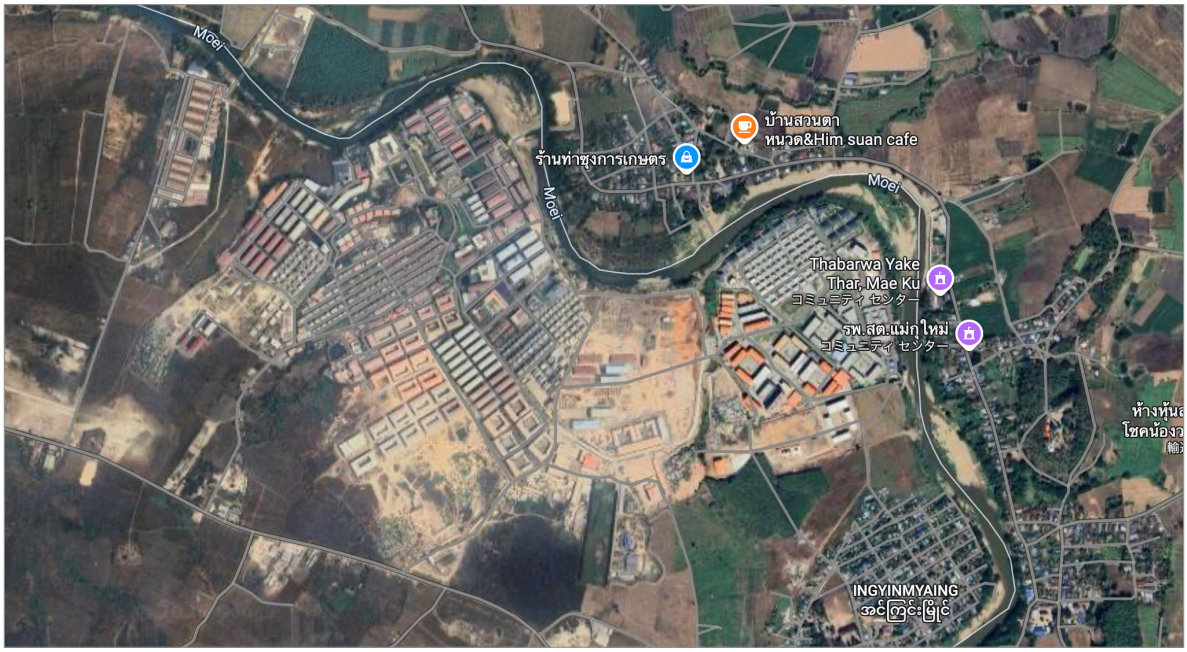
安田：そうなんです。到着するのがあと2週間早ければ、多分入れたと思うんですね。タイ軍が完全に封鎖していて、メーソットの町に入るところで検問していて、僕も入りたいんですって言ったら、パスポートを押さえられちゃいまして。「私たちは絶対にミャンマーに密入国しません」とサインを書かされて、パスポートを預けられてしまって、これで密入国したら僕らは本気でやばいじゃない、みたいな話になり。しかも一緒に行った半分悪い中国人は、半分悪いんですけど民主活動家なので、いろんな意味で中国的にお尋ね者で、持っているパスポートも偽物なんですよ。

（笑）

安田：パスポート偽物とか当たり前の世界なんで。もしこれが問題になったら強制送還とかされて、（中国で）拷問されるから嫌だとか言って、じゃあ無理しないでおこうって、対岸から見て。その時はそんな事態でした。それが一回目。

（講演録の試し読みはここまでです）

KK 園区



衛星写真：KK 園区

モエイ川沿いに出現した詐欺園区

タイ・メーソートの対岸、ミャンマー・カレン州ミャワディ郡区のモエイ川西岸に、巨大な詐欺拠点が築かれた。KK 園区、英語名 KK Park。2020 年代以降、ミャンマー・タイ国境におけるオンライン詐欺、人身売買、強制労働の象徴として国際報道に登場するようになった。

KK 園区は KK I、KK II、東風（Dong Feng）など複数区画から成る広域複合施設である。Pulitzer Center と SCMP による現地調査は、KK I が 2019 年末から 2021 年半ばに完成したことを、Maxar 社の衛星画像で示した。同じ記事は、ミャワディ南方の環亜国際城と興華園区が 2021 年 4 月から 2023 年 3 月にかけて急速に開発されたことも、衛星画像で示している。

急拡大の背景には、ミャンマー内戦下の権力空白、カレン系武装勢力の支配領域、中国系犯罪資本、タイ側インフラが地理的に重なり合う条件がある。DW の取材は、KK 園区内部で元収容者が見た警備員バッジを BGF（国境警備隊、カレン系武装組織）のものと認識したと報じ、同時に「ボスは中国系」とする複数の証言を紹介している。

土地・警備を握る BGF ／ KNA

KK 園区を理解するには、詐欺実行企業だけでなく、土地・警備・電力・通信・渡河ルートを支える武装組織の存在を見る必要がある。カレン BGF は 2010 年、DKBA 系勢力がミャンマー軍の国境警備隊として再編されて発足した。2024 年には KNA への改称を進めた。Justice For Myanmar（JFM）は、ソーチットゥー（Saw Chit Thu ／別名サンミィン）が家族・側近とともに KNA ／ BGF 系の企業ネットワークを築いた経緯を追跡している。

JFM の企業調査によれば、チットゥー一家は Chit Linn Myaing Toyota、Chit Linn Myaing Mining & Industry、Chit Linn Myaing Energy など複数企業に関与し、Shwe Myint Thaung Yinn 系企業はタイ側からの電力輸入や燃料供給に関わった。さらに JFM は、タイからの電力遮断後、発電機燃料や通信帯域の再販売が KNA ／ BGF 側の収益源となった可能性も指摘する。

米財務省 OFAC も、2025 年 9 月 8 日の制裁発表で、KNA がミャンマー軍と協力してカレン州東部の領域支配を獲得し、詐欺センターへの土地・電力・公共インフラの提供によって利益を得たと認定した。OFAC のこの発表はシュエコッコ／亜太新都市を中心に取り上げたものだが、ミャワディ国境詐欺経済の構造を示す重要な一次資料である[1]。

内部構造、詐欺と暴力

KK 園区の内部では、偽求人で東南アジア・南アジア・アフリカなどから集められた労働者が、ロマンス詐欺、暗号資産投資詐欺、オンライン賭博系詐欺に従事させられた。Pulitzer Center と SCMP の取材によれば、フィリピン人被害者ジェーン（Jane、仮名）とマックス（Max、仮名）はバンコク到着後、メーソートを経てモエイ川を越え、ミャンマー側の園区へ連行された[2]。

両名は KK I の 4 階建ての建物で、最大 15 人程度のチームに組み込まれ、12 ～ 14 時間勤務で 1 日 2 万 5,000 ドルの売上目標を課された。標的探し、SNS での接触、恋愛感情の演出、偽投資サイトへの誘導が分業され、最終段階では 1 日 20 万ドルに達することもあったと証言されている。

暴力は統治手段だった。Pulitzer Center と SCMP は、被害者の証言にもとづき、売上目標に届かない者への殴打を報じている。同じ記事では、近くの別の園区（Family Park）に閉じ込められていたインドネシア人が、感電や殴打、1 日 1 食での監禁を証言している。

DW も、KK 園区収容経験者の証言として、17 時間労働、監視、拷問、離脱を希望した者の他園区への「売却」や殺害示唆を報じた[2]。DW はさらに、KK 園区が当初から詐欺目的で設計された施設だとする分析も提示している。

資金面では、暗号資産が詐欺収益と身代金の双方に使われた。Chainalysis は、KK 園区関連の身代金支払い先とされる二つのアドレスを分析し、それらが詐欺関連ウォレットからの入金も受けていたと報告した[3]。詐欺被害者から奪った資金と、収容労働者の家族から徴収した解放金が、同じオンチェーン経路に混在していた可能性がある。

臓器売買・採血疑惑の扱い

KK 園区をめぐっては、臓器摘出、採血、死体処理に関する噂が繰り返し流れてきた。しかし、組織的な臓器摘出ビジネスが KK 園区内で恒常的に運用されていたことを示す、国際機関・司法資料・主要メディアによる確定的物証は確認できない。

一方、死亡例や医療施設をめぐる証言は存在する。Pulitzer Center と SCMP は、22 歳のケニア人女性グレース・マタ（Grace Mata）が 2022 年 7 月に KK 園区へ人身取引され、意識不明の状態でタイ側メーソートの病院へ搬送されたのち、約 2 週間後に死亡した事例を報じた[2]。同記事では、メーソート拠点 NGO であるグローバルアームズ（Global Alms）のメシェル・ムーア（Mechelle Moore）が、KK 園区内部の病院で違法な手術が行われたと述べている。

死亡例や園区内に医療施設が存在することは複数の証言から裏付けられているが、「KK 園区で組織的な臓器摘出が制度として行われていた」とまで踏み込んだ証拠は得られていない。

2025 年 10 月、軍政摘発

2025 年 10 月、ミャンマー軍政は KK 園区への摘発を発表した。Al Jazeera は、ミャンマー軍が KK 園区で 2,198 人を拘束し、Starlink 端末 30 基を押収したとする国営紙『ミャンマーアリン』（Myanmar Alin）の報道を伝えた。拘束者の内訳は男性 1,645 人、女性 445 人、男性警備員 98 人と報じられている（内訳の合計は 2,188 人で、総数と 10 人合わない）[4]。

RFA も同様に、ミャンマー軍政が KK 園区で Starlink 受信機・付属機器 30 セットを押収したと報じた。ただし AFP が摘発直前の 10 月に撮影した写真では、KK 園区内のひとつの建物の屋上だけで 80 基近い Starlink 端末が確認されており、押収 30 基という数字は園区全体の利用実態を示すものではない[4]。

『ガーディアン』（Guardian）掲載の AP 記事も、2025 年 10 月の摘発で 2,198 人が拘束され、Starlink 端末 30 セットが押収されたと報じた。同記事は、KK 園区をミャワディ郊外、タイ国境に近いカレン州の詐欺拠点と位置づけ、同地域がミャンマー軍政の完全統制下ではなく少数民族武装勢力の影響も受けると述べている[4]。

限定的な破壊、パフォーマンスとしての爆破

摘発後、KK 園区では爆破と重機による破壊が続いた。だが、破壊の範囲と性質を OSINT で追うと、軍政発表ほど単純ではない。Myanmar Witness は、SSPC・軍政情報省が 2025 年 11 月 9 日に KK II 内 148 棟の破壊を予告し、11 月 19 日の続報で 11 月 17 日までに完了したと発表した経緯を、衛星画像で照合している[5]。

しかし Myanmar Witness の分析では、2025 年 11 月 23 日時点で破壊を確認できた建物は 109 棟にとどまる。さらに破壊方法は爆薬と重機の二系統あり、爆薬による破壊確認は少なくとも 12 棟、重機による破壊確認は少なくとも 56 棟だった。重機による破壊では建物の一部が残り、将来的に再建可能な状態に見える例もあった。

WIRED も同じ疑念を提示する。2025 年 11 月 16 日の衛星画像では、破壊は KK 園区全体の一部に限定されていた。軍政発表では 635 棟中 237 棟を破壊、1,847 人を拘束、PC 3,000 台超、携帯電話 2 万 1,000 台、Starlink 端末 102 基を押収したとされる。だが WIRED が取材した専門家は、この破壊をパフォーマンス的なものと評価し、重要証拠の喪失や詐欺中枢の温存を懸念している[6]。

BBC のジョナサン・ヘッド（Jonathan Head）とルル・ルオ（Lulu Luo）による記事「Myanmar's army says it wants to eradicate scam compounds. Is it really doing that?」も、モエイ川対岸から見た爆破の現地ルポを通じて、軍政の「根絶」主張に疑問を投げかけた[7]。ただし爆破は産業の解体そのものではない。KK 園区の本体は、人身売買された労働力、武装警備、通信、電力、暗号資産決済、越境移動ルートの結合にある。

635 棟全棟破壊と人員移転

軍政の破壊作業が一気に加速したのは 2025 年 12 月 10 日以降である。破壊済みの棟数は、12 月 7 日の国営発表で 321 棟、AP 通信の 12 月 13 日時点の集計で 413 棟だった。Global New Light of Myanmar（GNLM）によれば、KK 園区内の不法建築物 635 棟すべての破壊が完了したのは 2026 年 1 月 9 日である。内訳はセクション I が 148 棟、セクション II が 62 棟、セクション III が 425 棟だった[8]。破壊の手法も多層的で、管制爆破と重機による解体に加え、12 月 14 日以降はファイヤーバレル（可燃物を詰めたドラム缶を建物内で燃やし、破壊を確実にする処分）による燃焼処分が並行して進められた。

見かけ上、2026 年 1 月までに全棟破壊は達成された。だが Myanmar Witness と WIRED が 11 月時点で指摘した「パフォーマンス的破壊」という性格は、全棟破壊の達成によっても覆らない。建物の物理的な消滅は、詐欺経済そのものの終焉を意味しないからだ。Myanmar Witness が「重機破壊では建物の一部が残り、再建可能な状態に見える例」と指摘した箇所も、12 月以降にファイヤーバレルを併用することでようやく完全消滅に至った。つまり当初から徹底破壊が意図されていたわけではなく、作業の遅延を受けて事後的に徹底化が進んだにすぎない。

人員の移転も、これと並行して進行した。PBS NewsHour ／ AP の 2025 年 12 月 17 日報道によれば、KK 園区から流れた労働者のうち 200 人以上が、ミャワディ郡区中心部とシュエコッコの間のモエイ川沿いに位置するアポロ園区へ移送された。別の 100 人ほどは恒升 4 園区（恒升園区／ Hengsheng Park 4）へと移っている[9]。アポロ園区を運営しているのは、チットゥーの長男ソートゥーエームー（KNA 第 777 戦術司令部司令官）が取締役兼株主を務める企業である。恒升 4 園区は、Myanmar Now の 2025 年 12 月調査リスト（記事 ID 70148）に「恒升／ Heng Sheng 4 (Phoenix) Park」として記載されている[10]。

KK 園区で採用されていたアフリカ系労働者も、KK 崩壊後には近隣園区へ「再配置」されていった。Telegram 上では、ミャワディ郡区中心部からの遠隔勤務を提示する求人や、ヤンゴンからプノンペンへの直行便を使った移動を斡旋する募集も続いた[9]。「破壊された」建物の労働者と運営者は、流域内で次の建物へと移っただけにすぎない。

パフォーマンスと継続のあいだ

2025 年 10 ～ 11 月の摘発と、2026 年 1 月までに完了した 635 棟全棟の破壊は、国際的圧力への応答として大きく報じられた。しかし Myanmar Witness と WIRED の分析を見るかぎり、破壊は限定的・部分的に始まり、パフォーマンス的性格を帯びていた。建物を爆破しても、労働力の売買、通信環境、警備主体、資金洗浄経路が残れば、園区は別名・別座標で再生する。実際、2025 年 12 月時点で KK 園区労働者はアポロ園区と恒升 4 園区へ移転した。建物の破壊は完了したが、「Company-1」の運営者群（黄星山、江文傑ら）は保利園区経由で順達園区へ拠点を移し、順達崩壊後はカンボジア・ボコール山へと移った（後述「保利園区」「ボコール山」参照）。

基本データ

- 名称：KK 園区／ KK Park
- 所在地：ミャンマー・カレン州ミャワディ郡区、モエイ川西岸、タイ・メーソート対岸
- 座標：16° 38'51.2"N、98° 31'14.6"E
- 構成：KK I、KK II、東風（Dong Feng）など複数区画。総建物数 635 棟（セクション I 148、II 62、III 425）
- 主要人物：ソーチットゥー（KNA 司令官、KK 園区警備提供）ほか中国系運営者
- 運営構造：中国系犯罪シンジケートが詐欺事業を運営、KNA ／ BGF が土地・警備・インフラを提供
- 主要機能：ロマンス詐欺、暗号資産投資詐欺、オンライン賭博、人身売買、強制労働
- インフラ：モエイ川渡河ルート、武装警備、タイ側電力（2023・2025 年遮断）、Starlink、暗号資産決済
- 2025 年 10 月摘発時の軍政発表：2,198 人拘束、Starlink 端末 30 基押収
- 2025 年 11 月時点軍政発表：635 棟中 237 棟破壊、1,847 人拘束、PC 3,310 台、携帯 21,870 台、Starlink 102 基、ルーター 22 台押収
- 2025 年 12 月時点：破壊済み 321 棟（12 月 7 日国営発表）、413 棟（AP、12 月 13 日時点）
- 2026 年 1 月 9 日：635 棟全棟の破壊完了（GNLM）
- 崩壊後の人員移転：アポロ園区へ 200 人超、恒升 4 園区へ約 100 人（PBS ／ AP 2025/12）
- 運営者群の拠点移動：KK →保利→順達→ボコール山（FBI 訴状 Case 1:26-mj-00018-MAU）

出典

[1] U.S. Department of the Treasury, "Treasury Sanctions Southeast Asian Networks Targeting Americans with Cyber Scams," sb0237, 2025 年 9 月 8 日 https://home.treasury.gov/news/press-releases/sb0237

[2] Pulitzer Center / SCMP, "Exclusive: Inside the Chinese-Run Crime Hubs of Myanmar that Are Conning the World," 2023 年 7 月 https://pulitzercenter.org/stories/exclusive-inside-chinese-run-crime-hubs-myanmar-are-conning-world-we-can-kill-you-here ／ DW（Deutsche Welle）調査報道チームによる KK 園区の生存者取材 , 2024 年 1 月

[3] Chainalysis ／ International Justice Mission の分析（2024 年 2 月）。The Record, "Investigators trace $100 million in crypto payments to Myanmar scam syndicate," 2024 年 2 月 https://therecord.media/myanmar-pig-butchering-scams-cryptocurrency-payments-traced

[4] Al Jazeera, "Myanmar military arrests more than 2,000 people at infamous scam centre," 2025 年 10 月 21 日 https://www.aljazeera.com/news/2025/10/21/myanmar-military-arrests-more-than-2000-people-at-infamous-scam-centre ／ RFA, "Myanmar junta says it seized 30 Starlink receivers in scam center raid," 2025 年 10 月 20 日 https://www.rfa.org/english/myanmar/2025/10/20/myanmar-starlink-scam-center-raid/ ／ AFP（Malay Mail 掲載）, "Myanmar junta raids scam compound housing 2,200 workers, seizes 30 Starlink receivers near Thai border," 2025 年 10 月 20 日 https://www.malaymail.com/news/world/2025/10/20/myanmar-junta-raids-scam-compound-housing-2200-workers-seizes-30-starlink-receivers-near-thai-border/195282 ／ AFP, "Myanmar scam centres booming despite crackdown, using Musk's Starlink: AFP investigation," 2025 年 10 月 14 日 https://www.inkl.com/news/myanmar-scam-centres-booming-despite-crackdown-using-musk-s-starlink-afp-investigation

[5] Myanmar Witness, "Investigation into the destruction of KK Park II," 2025 年 12 月 17 日 https://www.info-res.org/articles/investigation-into-the-destruction-of-kk-park-ii/

[6] WIRED, "The Destruction of a Notorious Myanmar Scam Compound Appears to Have Been 'Performative'," 2025 年 11 月 https://www.wired.com/story/myanmar-kk-park-scam-compound-destruction/

[7] Jonathan Head & Lulu Luo, "Myanmar's army says it wants to eradicate scam compounds. Is it really doing that?" BBC, 2025 年 11 月 https://www.bbc.com/news/articles/cr7l0ljvvejo

[8] Global New Light of Myanmar, "635 illegal buildings tied to scams, gambling demolished in KK Park," 2026 年 1 月 https://www.gnlm.com.mm/635-illegal-buildings-tied-to-scams-gambling-demolished-in-kk-park/ ／ 聯合新聞網「緬甸大動作打詐！KK 園區被『徹底夷平』635 處據點全數炸毀」2026 年 1 月 10 日 https://udn.com/news/story/6809/9257144 ／ Nation Thailand, "321 illegal buildings demolished and 161 sealed and confiscated in KK Park area," 2025 年 12 月 7 日 https://www.nationthailand.com/news/asean/40059375 ／ PBS NewsHour / AP, "Myanmar has declared a 'zero tolerance' policy for cyberscams, but the fraud goes on," 2025 年 12 月 17 日 https://www.pbs.org/newshour/world/myanmar-has-declared-a-zero-tolerance-policy-for-cyberscams-but-the-fraud-goes-on ／ Myanmar Ministry of Information, http://www.moi.gov.mm/moi:eng/news/19982 ／ Myanmar International TV, "Combating Online Fraud: Illegal buildings in KK Park fully demolished" https://www.myanmaritv.com/news/combating-online-fraud-illegal-buildings-kk-park-fully-demolished

[9] PBS NewsHour / Associated Press, "Myanmar has declared a 'zero tolerance' policy for cyberscams, but the fraud goes on," 2025 年 12 月 17 日 https://www.pbs.org/newshour/world/myanmar-has-declared-a-zero-tolerance-policy-for-cyberscams-but-the-fraud-goes-on

[10] Myanmar Now, "မြန်မာ-ထိုင်းနယ်စပ်တစ်လျှောက် ကျူးကြွန့်လုပ်ငန်း ၄၂ ခုအထိ ရှိနေ," 2025年12月13日 https://myanmar-now.org/mm/news/70148/